

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立上之郷小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 27人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語，算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

・平均正答率は全国とほぼ同じ状況であるが、分布状況は全国と比べ上位層が少なく、また、下位層にも1つピークがある。

平均正答率（本校 67／泉佐野市 62／大阪府 64／全国 65.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>【読むこと】</p> <p>○人物像や物語の全体像を具体的に想像することに課題がある。</p> <p>2二 物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の A に入る内容を書く（63/68.3）</p> <p>【書くこと】</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章のいいところを見付け文章にすることに課題がある。</p>	<p>3二 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章二】のよさを書く（33.3/37.7）</p> <p>【その他】</p> <p>○設問の後半へ向かうほど無解答率が上がる。</p> <p>2二～3一（無回答率3.3） 3二～3三ア（7.4）</p> <p>3三イ～3四（11.1）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
解答時間は十分でしたか	66.6	66		0.6
国語の勉強は好きですか	66.6	59.2	◇	7.4
国語の勉強は大切だと思いますか	100	93.3	◇	6.7
国語の内容はよく分かりますか	92.6	84	◇	8.6
学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	88.8	78.2	○	10.6
読書は好きですか	77.8	73.1		4.7
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	85.1	73.5	○	11.6

○後半に漢字の書き取り等文章記述ではない問題が設問されているにもかかわらず、無解答率が上がるのは、問題の全体を見て取り組む順番を考えずに前から順番にしか問題にとりくんでないのではないかと考えられる。

○【書くこと】の内容について課題がある。

○記述式問題について、無回答率は低いものの、問題の意図を正確に読み取り自分の考えを書くことに課題がある。

○算数や理科に比べ、国語の勉強が好きだと思っている児童の割合が低い。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の分布状況は、全国と比べ、少し上位層へ偏りがみられる。

平均正答率（本校 69／泉佐野市 61／大阪府 63／全国 63.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問	
<p>【図形】 ○正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できている。 (70.4/48.8)</p> <p>【数と計算】 ○2つの数の最小公倍数を求めることに課題がある。 1(2) 14と21の最小公倍数を求める (63.0/72.2)</p>	<p>【変化と関係】 ○示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。 2(3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ (14.8/21.3)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	81.5	62.5	○	19
算数の勉強は大切だと思いますか	100	94.2	◇	5.8
算数の授業内容はよく分かりますか	92.6	81.2	○	11.4
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	85.2	69.3	○	15.9
算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	92.6	80.4	○	12.2
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	88.9	76.8	○	12.1
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	92.6	85.7	◇	6.9
解答時間は十分でしたか	81.5	83.4		1.9

○プログラミングの内容部分については、実際に授業でICTを使って作図を行うなど、実体験から知識として身につけることができている。

○果汁が含まれている飲み物の問題（割合）に課題がある。

○最小公倍数の求めることに課題がある。

○算数の学習に対して、肯定的な考えをもつ児童が多い。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、ほぼ全国と同じ状況であり、やや上位へ偏っている。

平均正答率（本校 66／泉佐野市 58／大阪府 60／全国 63.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
<p>【生命】 ○自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できている。 1(2) 自分の観察の記録と新たに追加された他社の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く (81.5/67.5)</p> <p>【地球】 ○観察などで得た結果を、結果からいえることの観点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題がある。 4(3) 結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ (33.3/45.5)</p>	<p>【粒子】 ○自然の事物・減少から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。 2(4) 凍った水溶液について、試したいことを基に見出された問題を解く (40.7/39.3)</p> <p>【エネルギー】 ○日光は直進することの理解に課題がある。 3(1) 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ (33.3/27.8)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科勉強は好きですか	88.9	79.7	○	9.2
理科の勉強は大切だと思いますか	85.2	86.5		1.3
理科の授業内容はよく分かりますか	96.3	88.5	◇	7.8
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	77.8	67.9	◇	9.9
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	96.3	78	○	18.3
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことがわかったのか考えていますか	92.6	84.9	◇	7.7
自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあります	85.1	65.1	○	20
解答時間は十分でしたか	81.5	90.8	◇	9.3

○自然の中で遊ぶことや自然観察をすることが多い児童が多いため、生命分野の正答率が高い

○他者の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できていない。

○解答時間が「十分だったと思えた」が他と比較して児童が少なかった。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【子ども自身について】	<p>○あきらめずにやり遂げる気持ちを持っている</p> <p>○相手の意見を受け入れることができる</p> <p>○悩み事がある時に、相談できる相手がいる</p>	<p>○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか <100/87.2></p> <p>○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか <85.1/73.5></p> <p>○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか <96.3/87.1></p> <p>○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか <85.1/68.1></p>
【家庭での様子】	<p>○放課後や週末など、家族と過ごす時間が多い。</p> <p>○スポーツをしている児童が多い</p> <p>○放課後や休みの日に学習する時間が短い</p>	<p>○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか 分布のピーク <30分以上1時間未満 33.3/1時間以上2時間未満 34.3></p> <p>○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか <1時間より少ない 44.4/31.5></p> <p>○放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか <スポーツ 66.7/42.7, 家族と過ごす 74.1/61.6></p>
【学校での様子について】	<p>○学習の見直しをすることができている</p> <p>○学級の中で意見を言い合うことができている。</p>	<p>○学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか <88.8/78.2></p> <p>○あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか <81.4/73.5></p> <p>○学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。 <81.4/73.8></p>

本校の取組

◎これまでの取組

本校の研究目標は「ことばの力を高め言語活動の充実した授業づくり」を研究主題とし、本年度で5年目を迎える。本校では、ことばの力を、「まとめる力」「説明する力」「読み取る（聞き取る）力」と定義している。

ことばの力を高めるために、

- ・学習の目標を明確にして、それを達成するまでの学習計画などを示し、児童が見通しを持って学習できるようにする。その中で児童が「つきたい力」「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を自ら考えられるようにしている。
- ・「読み取る力（聞きとる力）」が向上する授業づくりとして、文章中の作者・筆者が読み手に伝えたいことを読みとり要約できるようにしたり、文章の中から必要なキーワードや問いを見つけたりする活動を行っている。また、学び合う場面を工夫した授業の展開として、自力解決学習にとりくみ、自分の考えを書く時間をつくっている。そして、児童が安心して考えを書くことができるように、まとめの書き方の型を示し、書く時間の確保やホワイトボードなどの活用を行っている。
- ・語彙力の獲得のために、朝の学習での読書活動（読書タイムの実施）を実施している。（低学年では絵本の読み聞かせ高学年では小説など文字がメインの読み物にするなど学年の実態に応じて実施。）

◎これからの取組

今年度の全国学力・学習状況調査結果から本校の課題を改善するために、以下のことに取り組む。

○【無回答率は低いものの、問題の意図を把握し解答すること】と【書くこと】において課題がみられた。

そのために、自分の意見を書く時間をつくること。自分の意見を書く前には何を聞かれているのかを考えられるようにペアや班などで話し合いを行うことで、意見を書くためのきっかけになるように工夫する。また、ホワイトボードにまとめたり聞き取ったりしてメモをしたり（オープクエスチョンなど）、クロームブックのジャムボードなどを活用したりする。

また、書いて終わりではなく、自分の考えを伝えたり、相手のよさに気づき、自分の意見と比較したりする指導を取り入れていく。低学年では、相手の意見を聞いていいところを見つけるところからはじめ、学年が上がっていくにつれて、自分の意見と友だちの意見を比べ、どこが同じなのか、違うのか考えていくように指導していく。

そして、「何故そうするのか、何故そう考えるのか、何故そうなるのか」を考える時間をつくることを大切にして授業を行う。例えば、算数では、何故そのような計算が成り立つのか、説明できるのかを考えていくことができるように、問題の解決の方法を説明する中で、計算の仕方だけを説明するのではなく、図や表と式がどのように繋がっているのかを説明する活動を大切にする授業を行うことで課題を克服する。

理科では、ただ「教科書に書かれているからその実験をする・先生が言うからこれをする」ではなく、授業の中で「何故その実験をする必要があるのか」、「何故そうなるのか」を考える時間をとるようにし、物事の本質をとらえられるような学習指導を行うことにする。

授業の流れのポイントとして、①各単元の節目ごとに、めあてに入るまでの導入の工夫を行い、子ども自身がなぜその学習をするのかを自分事にとらえられるようにする。②どう考えていけばいいかを自分で決められるように、見通しの部分をしっかりと考えられるように時間をとる（自己決定）。③いろいろな意見が出た後に、出てきた様々な意見を交流しながら自分はどうすればいいのか、どうしていけばいいのか、何がわかるのかなどを考えるようにする（自己選択）。